

## 2020 年度業務改善事例・提案コンテストの表彰式をオンラインで開催



### 表彰式での大林組土木本部本部長 野平の挨拶（要約）

#### <事例報告全般に対する感想>

- ・改善の内容は「業務効率化」の事例が多く見受けられる。
- ・毎年募集を行っていることもあり、応募するための事例探しに苦心していることが感じられる。

#### <事例報告をされた皆さんに期待すること>

- ・報告された改善事例は今後携わる建設現場で幅広く活かしてほしい。
- ・仕事のあらゆる場面で「もっと良い方法があるのではないか」といった発想をしながら仕事に取り組む、そのような文化を大林組の建設現場で築き上げるため、皆さんには協力会社の先頭に立ち、大林組職員と一緒に取り組んでほしい。

#### <2021 年度の募集テーマ>

3つの大きなテーマを主軸に募集を行う。

##### ① 安全性の向上

- ・建設現場では、作業手順書などを作成し、ルールを決め、作業員への周知教育を行っている。この業務改善ではもう一步踏み込み「機械と人の接触を物理的に止める」、

「自動的に止まる」、あるいは「事前に感知し知らせる」などの方法を考え、実践した事例報告を期待している。

- ・機械の開発などメーカーや機器レンタル会社と協力が必要となる場合は、大林組と共同開発するということも考えられる。

## ② 生産性の向上

- ・「生産性の向上」は、従来行ってきた「業務効率化」から大きくは変わらないが、さらに発想を広げて、従来の効率化のやり方にとらわれないやり方を工夫してほしい。

例1) コンクリート打設では一切バイブレータを使わず、流動化コンクリートを使用して省人化・省力化を図った。

例2) 鉄筋は一切現地で組まず、近隣ヤードでプレハブ化し、クレーンで立て込み、省人化・省力化を図った。

## ③ 働き方改革

- ・大林組は改正労働基準法の100%遵守を一年前倒しして2023年度必達をめざし実施する。
- ・協力会社は各社それぞれに適した方法を考え、協力会社の社員だけでなく、作業員も含めた働き方改革、労働時間の縮減を考えてほしい。
- ・建設現場の大林組の社員と相談し、事前に計画し実践した結果を報告してほしい。

以上